

にしっこ 西っ子のみなさんへ 42

8月27日

2014年8月27日、御嶽山が噴火し58名の方が亡くなり、戦後最大の火山災害となりました。御嶽山は1979年10月28日にも水蒸気噴火を起こしていますが、この時は登山の時期から外れていたので被害者はいませんでした。この1年前に私は御嶽山の山頂まで登っていたので大変驚いたのと、登っている時に噴火しなくてよかったと思ったことを覚えています。実は御嶽山、有史以来噴火した記録がなく今後も噴火しないであろうということで「死火山」に分類されていました。当時、火山は「活火山」「休火山」「死火山」と3つに分類されていましたが、1979年の噴火により定義が見直され、現在は過去1万年以内に噴火したことがある火山は「活火山」とされています。

ちなみに岐阜県にある火山は、焼岳・白山・乗鞍岳・御嶽山・アカンダナ山の5つで、焼岳は噴煙を上げている姿をよく見ることができる活火山です。

今、噴火の可能性が心配されているのが、「富士山」です。

富士山は、日本の最高峰で、標高3776mの美しい円錐形の独立峰ですが、りっぱな活火山です。

富士山はここ300年ほど噴火していません。しかし、西暦781年～1707年(宝永の大噴火・最後の噴火)の間に17回噴火していることを考えると、今回の休止期間は少し長いように感じられます。そろそろ危ないのではというのが多くの火山学者の考えです。

また、宝永の大噴火は、南海トラフを震源とした宝永の大地震の49日後に起きています。現在、東海地震と同様、南海トラフによる大地震も大いに心配されているところです。もしかすると300年前と同様に、大地震と富士山の噴火という2つの災害がほぼ同時に起きる可能性があります。

1707年の噴火は山頂からの噴火ではなく、山腹からの噴火でした。大量の火山灰(砂みtainな細かい粒)を吹き出し、100km離れた江戸の町にも届いたことが記録に残っています。

富士山とよく似た形をしていたアメリカの火山セント・ヘレンズ山は、1980年5月18日に激しく噴火し、山頂部分が吹き飛んでしまう山体崩壊を起こしました。

この噴火により、山の高さは2,950mから2,550mになってしまいました。富士山も大噴火を起こし、火山噴出物を大量に出すと、山が崩れ、カルデラ地形をつくるかもしれません。

